

Performing Arts Garden

今回で3回目の開催となる「パフォーミング・アーツ・ガーデン」。

今年は多数の応募者の中から、愛知で活躍が期待される10組のパフォーマーが選ばれました！
ダンスや演劇という形にとらわれない表現、音や映像にも工夫の凝らされた作品が目白押しです。

ゲストには、海外でも活躍中のC/Ompanyが登場します。

またこの企画は、出演するパフォーマーだけではなく、アートマネージャーの卵や若手デザイナーが制作に参加し
パフォーミング・アーツのさまざまな可能性を育てる『庭』となっています。

10+1の世界観を一度に味わえる貴重な1日。ぜひ体感してください！

ゲスト

シー斯拉ッシュ

C/Ompany (大植真太郎 柳本雅寛 平原慎太郎 工藤聡)

新作「」

11月某 制作ノートより

- 1:ダンスなんだから踊ればいいさ。でも踊りの中に隠れちゃだめよ。
- 2:ダンサーは踊る、いや、出来れば動いてたらダンスにそれが見えてきた。
- 3:アフタートークをするよりも作品の中で説明または素顔を見せる。

但しそれが作品の意図するところと共鳴すべし。


三つ戒言を出発地点として、新作「」の制作過程の一部を皆さんの前で試します。「百聞一見にしかず」ともいい、「一見したところ何某」ともいい、「一見で全てはわからない」と頭を抱え込んでいます。



Photo:Matron

出演者 ※実際の上演順とは異なります

アルカイクライトボディ イグジット

■archaiclightbody×exit

「抱きしめあうと眠りづらい Original&Another」

アーツチャレンジ2009にて発表された「バイパスドール」の1シーン「抱きしめあうと眠りづらい」を、振付家の新解釈を入れ再振付する。

アーボン

■ARPON

「Chaos of paradise」

「恐怖に抗いながら喜びを求める人の姿」をテーマに、映像と彫刻、パフォーマンスとラップとダンスによる複合的に構成。漫然とした不安を認めつつ乗り越える力を表現。

■太めパフォーマンス

「太めパフォーマンスの酒池肉林」

感謝と祈りをこめて、快樂におぼれる。思いやり、おぼれる。感覚や表情、空気を共有すると、さらに快感が得られるでしょう。水や食物を用いる。大きな木のある風景なイメージ。

テング

■演劇ユニット ,5

「ミカミ」

自分という幸せへの試行。ぼんやりとしている錯覚の中で言葉と感情を別々のピースとして扱い刺激する。そして私たちの無意識の感覚を刺激する。

ディーコネクション

■D-connection (至学館大学創作ダンス部)

「BEAT ITー心の声」

目の当たりする現実と、限界を超えたい想い。鼓動から伝わる刺激に反応する、真っ暗な暗闇の中微妙に感じる…鼓動。

テッキーニッキー

■Teckey Nickey (中京大学ダンス部)

「哀しみを聞く樹」

曇り空の下に立つ1本の樹と、哀しみを抱える人。樹は人を感じる。人は哀しみを樹に話す。人の哀しみを全て受け止め、樹はやがて…

■フ透明少年

「静かな人形」

うねる関節、ゆっくり曲がる動体、時々止まってしまう呼吸。限りなく人形へと近づく身体と、身体の動きに合わせて変化する映像との合作。

ウォータードロップスコンテンポラリーダンスカンパニー

■Water Drops Contemporary Dance Company

「昼から呑む」

ベンチに座る人、バスを待つ人、お酒を飲んでいる人…街に一人にいる人を観察。私は今どんな顔をしているのか…一見何もしていない彼等の内情。

■三輪亜希子

「マトルの約束」

John Psathasの6台のピッチの違う太鼓とピアノのための作品『Matre's dance』。主人公マトルは、一度も同じステップを踏まず踊り死んだという。共演:うえだよう(p)、山澤洋之(per)

■吉田琢己

「toki【時】」

時間は刻々と過ぎてゆく、すべての時にはその瞬間が一度しかない。人間がどう逆らっても冷たく淡々と経過してゆく。その中で人間の存在価値を身体表現と映像で問う。

